

## テーマ7: 確率的モデル化と統計的推論

<http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/~date/lectures/2006tokuen/index.html>

### 1 今日の予定

- 来週おこなう口頭発表の準備。発表資料作成と、その資料を使ってどう発表するか考えメモを作る。資料の作り方などは上記の Web ページや Google で L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の使い方 が書いているページを検索し参考にする。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X は奥が深い。それは卒業研究などを通して学ぶと思うので、ここでは深入りする必要はない。思った通り数式や図が表示できない場合は質問してみることに。

### 2 最終日(5月31日)の予定

- 1人1人が全員の前でプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの形式は、コンピュータを使ってもいいし、資料を配り黒板を使ってもよい。
- 5分で説明できるよう、準備しておく。その後、質疑応答をおこなう。一人あたりの時間は合計で8分の予定。
- L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xなどでプレゼンテーションファイルを作成しコンピュータを使ってプレゼンテーションをする場合、一台のノートパソコンにファイルをまとめるため、当日の午後1時までに [date@cs.miyazaki-u.ac.jp](mailto:date@cs.miyazaki-u.ac.jp) までファイルを添付したメールを送ること。なおプレゼンテーション資料は Powerpoint で作成してもよいが、linux上で作成した eps ファイルの図を linux から windows へ転送するのが面倒くさい。
- 提出物：プレゼンテーションで使った資料、配布資料、計算機プログラム。できるかぎり電子ファイルで作成し、メールでも提出すること、提出期限は6月7日。この期限に間に合わないそうにない場合は、相談すること。

### 3 注意

- 明瞭に、順序よく、わかりやすく話す    どうするかよく考える(簡単ではない)
  - 何をやってどういう結果を得たか
  - グラフの縦軸、横軸、線が何を意味しているか
  - 重要な事実、もっとも重要な点は何か
- 話す内容を前もって整理しておく。
- 5分という短い時間なので、充分、練習しておく
- スライドなら 3,4枚程度。
- 準備したものを読むのは聞き手がつまらない    評価が低い
- 前の人の説明と同じ、という説明では、説明能力を評価できないため避ける。
- 配布する資料がありコピーする必要がある場合、当日の午後1時までに A423 まで1部持参すれば、全員分のコピーを用意します。
- 発表の仕方が分からない、発表する内容がない、など、自分で少し考えてみて解決策がわからない場合は、すぐに TA、教員に相談すること。直前だと対応できなくなります。

## 4 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X での資料作成について

まずは以下のページを見ること .

<http://www.cs.miyazaki-u.ac.jp/date/lectures/latex/latexslide.html>

sample.tex

---

```
\documentclass[a4paper,landscape]{slides}
\usepackage{graphicx,color}
\definecolor{ly}{rgb}{1.0,1.0,0.5}
\title{\color{blue}\Large\bf
\LaTeX でプレゼンテーション\
{\color{black} サンプルファイル}}
\author{\bf 宮崎 太郎}
\date{2006 年 5 月 24 日}
\begin{document}

\begin{slide}
\maketitle
\end{slide}

\begin{slide}
\fcolorbox{red}{ly}{
{\large\bf 発表の仕方}}
\begin{itemize}
\item こんな面白い問題がある{\color{red}!}
\item どうやって解決するか
\item ...
\end{itemize}
\end{slide}
\end{document}
```

---

sample.tex というファイルを作成した場合 .

```
% platex sample.tex
```

で dvi ファイルができあがる . これ画面で見ると

```
% xdvi -paper a4r sample.dvi
```

とすればよい . -paper a4r は横型にするためには必要 . コンピュータでプレゼンテーションするときは pdf 化したものを使う .

```
% dvi2pdf sample.dvi
```

とすれば pdf ファイルができるので , 確認する . -1 は横型にするためには必要 .

```
% xpdf sample.pdf
```

完成すれば pdf ファイルを , 添付ファイルとしてメール `sympheed` を使いメールで `date@cs.miyazaki-u.ac.jp` まで前もって送る .